

事業番号	05 10 06	事業改善シート（28年度実施事業分）		<input type="checkbox"/> 当初要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	■点検
事業名	献血普及啓発事業				担当課	部局	健康福祉部
総合5か年計画	プロジェクト				課・局・室	薬事管理課	
	施策の総合的展開	6－1 健康で長生きできる地域づくり			E-mail	yakuij@pref.nagano.lg.jp	
		6 医薬品等の確保・適正使用の推進			実施期間	S40 ～	
人口定着・確かな暮らし実現総合戦略	信州創生の基本方針						
	施策展開						

1 事業の概要

目指す姿	長野県内で使用される輸血用血液製剤等の原料として必要な血液量を、県内の献血者血液により確保し、血液の安定供給を図る。 成果目標：献血目標達成率を100%以上とする。	
現状（予算編成時）	・県内で必要となる血液は、概ね県内献血者による献血で確保できている。 ・献血目標は3年連続で達成できているが、若年層献血者数が減少傾向にある。	
県が関与する理由	県でなければ実施不可（法令等義務）	【左記の説明、根拠法令等】
	県民との協働による実施： 実施中	「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」により、都道府県の実施事項と定められている。

成果目標・事業内容

① 成果目標 (H28)					
平成28年度長野県献血推進計画において定める献血確保量31,322ℓを確保する。					
② 事業内容 (単位:千円)					
項目	実施方法	H28事業実績	H28		H29
			(当初)	(決算)	(当初)
1. 幅広い啓発の集中実施	直接	幅広く啓発を行うためにラジオによる啓発を実施 ・啓発運動に併せたラジオスポット広告(7月・1月) ・冬期献血啓発ラジオマンスリー放送(12～2月)	527	520	527
2. 体験・実践の機会の提供	直接	気軽に献血できるように献血場所を提供 ・献血ルーム体験運動(4会場×2～3日間、614人) ・定例献血スポットキャンペーン(4会場×3日間)	1,059	1,137	986
3. 若い世代への啓発の推進	直接	若い世代に献血していただけるよう啓発を実施 ・高校生啓発リーフレット配布(24,000部) ・新成人・大学生献血啓発パンフレット配布(24,100部) ・プロスポーツサポーターへの啓発(松本山雅FC、長野パルセイロ24,000部)) ・中・高校生からの献血推進啓発ポスターの募集71点(中学11校58点、高校4校13点) ・献血推進ポスター入選作品を使用したしおりの作成(80,000枚) ・啓発用ポケットティッシュ配布(30,000個) ・学生ボランティアキャンペーンの実施(2会場各2回)	3,016	1,879	2,955
4. 関係団体との連携	直接	献血周知のため関係団体等と連携して啓発を実施 ・長野県献血推進協議会の開催 ・長野県献血推進員(40名)による啓発活動	553	485	553
合計			5,155	4,021	5,021

事業コスト	区分(単位:千円)		27年度	28年度	29年度	成果目標の達成状況						
	予算額	前年度繰越				項目	H26末	H27末	H28			H29 目標
		当初予算	4,358	5,155	5,021				目標	成果	達成状況	
		補正予算				献血目標達成率	100.0%	100.4%	100.0%	97.40%	未達成	100.0%
		合計(A)	4,358	5,155	5,021							
	Aの 財源	一般財源	4,308	5,155	5,021							
		県 債										
		国庫支出金										
		その他	50	0	0							
	決 算 額(B)		3,879	4,021								
	概 算 人件費	職員数(人)	2.80	2.80	2.80							
		概算人件費 (C)	23,173	22,159	22,159							
概算事業費(B(A)+C)		27,052	26,180	27,180								

目標に対する成果の状況	・献血者数も前年に比べて減少しており、それに伴い献血確保量も減少した。 ・目標には達していないが、県内の医療機関で必要とされる血液が不足するような事態が生じることなく安定した需給状況であった。
-------------	---

2 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施
	血液は長期に保存することができず、また人工的に製造することもできないため、常に献血により確保し続けていく必要がある。 献血者数は全体的に減少傾向であるが、将来の献血者数の確保のため、10～20代の若年層への重点的な啓発が必要である。